



資料 1

【議題名】 各部の取組状況

2027年国際園芸博覧会協会

第六回持続可能性有識者委員会資料
2026年1月13日
サステナビリティ推進部



植物部の取組 (1/3)

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 来場者への花苗配布、公共団体への樹木などの譲渡、植物残渣の堆肥化の取組を推進
<p>各種戦略等での行動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 資源循環の関連対策の実施 (教育計画参照)
<p>調整状況・今後の動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 来場者へ花苗等の配布について検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 全国都市緑化かわさきフェア等の事例調査踏まえ、花苗配布を予定 ■ 閉幕後、公共団体へ樹木などの譲渡について検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 譲渡ルールに係る一定の整理がされ次第に、関連自治体へのサウンディングを開始 ■ 植物残渣の堆肥化について検討 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 植物残渣の発生シミュレーション結果と横浜市グリーン事業協同組合へのヒアリングを踏まえ、本博覧会バックヤードでの堆肥化を検討 ■ 植物残渣の発生想定量 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 環境アセスメントの想定量43tについては精査中

かわさきフェア等における花苗配布状況



堆肥化検討に向けての視察



植物部の取組 (2/3)

<p>概要</p>	<p>■ 植物管理等に関わるインターンシップ学生の受け入れ</p>
<p>各種戦略等での行動計画</p>	<p>■ 公式ウェブサイトでの情報発信 (C&E計画参照) ■ 公式SNSの活用 (C&E計画参照)</p>
<p>調整状況・今後の動き</p>	<p>■ インターンシップ事業で植物管理等に関わるプロジェクトを企画し、学生を受け入れている。活動の様子は、協会HP等で情報発信している</p> <p>2025年度実績</p> <p>①植物維持管理体験プロジェクト (6名) ②植物の調達・維持管理システム開発プロジェクト (1名)</p>

インターンシップ事業で募集

<p>①植物維持管理体験プロジェクト</p> <p>博覧会で使用する国内外の植物 1000 万株をどのように維持管理、生育確認していくのか？協会職員と一緒に植物の維持管理や植物の魅力を発信します！</p>	<p>③GREEN×EXPO の魅力発信、認知拡大実践プロジェクト</p> <p>テーマは「若者の視点で博覧会を盛り上げよう！」SNSを活用した魅力発信やイベントでのブース出展など、実践的な業務を経験いただけます。</p>
<p>②植物の調達・維持管理システム開発プロジェクト</p> <p>博覧会で使用する国内外の植物 1000 万株の搬入維持管理の効率化を図るため、協会職員と一緒に考えながら、業務効率化 IT ツールを開発します。</p>	<p>④持続可能な社会の実現に向けた博覧会会場の提案！課題解決型プロジェクト</p> <p>あなたが考える課題と解決策が、博覧会を変える！一緒に博覧会を盛り上げましょう。</p>

インターン活動報告

■協会職員の指導の下、バラを剪定
開催期間である9月に開花を揃えるため、咲いているバラを剪定。トゲがささらないよう、丁寧にバラを剪定しました。



植物部の取組 (3/3)

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 植物材料調達において協会策定基準を満たす事業者3者を「植物調達パートナー」として認定
<p>各種戦略等での行動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 計画地周辺における自然環境との連続性を持った緑のネットワークの構築 (サステナ戦略参照)
<p>調整状況・今後の動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 令和7年度中に必要となる植物について、植物調達パートナーとの育成契約を締結し、令和8年度からは会場内への搬入と植付予定 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 育成契約状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和5年度 (樹木等156品目) ・ 令和6年度 (樹木等103品目、宿根草等740品目) ・ 令和7年度 (精査中)

植物調達パートナーが育成中の希少な植物の例



ウリハダカエデ

- ・ 神奈川県にて育成中
- ・ 日本固有種で材木はこけし、玩具、箸、経木に、樹皮は縄、蓑として利用されてきた。名称は樹皮縞模様がマクワウリ果皮に似ることによる。

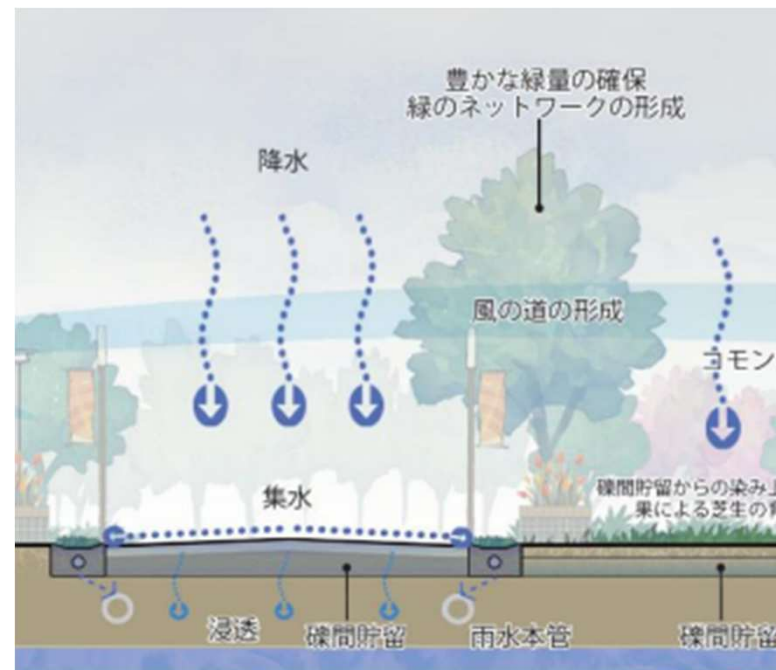


イロハモミジ 流泉 (りゅうせん)

- ・ 神奈川県にて育成中
- ・ 埼玉県で生まれた枝垂れ(しだれ)もみじ。葉色は春の黄緑、夏の濃緑、秋の橙色へと3段階に変化する。

<p>概要</p>	<p>■ グリーンインフラの導入</p>
<p>各種戦略等での 行動計画</p>	<p>■ 生物多様性の保全（サステナ戦略参照）</p>
<p>調整状況・ 今後の動き</p>	<p>■ 自然環境ポテンシャルを取り入れた会場計画を推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 取組の一部としてバイオスウェルを計画。バイオスウェルは「雨の道」とも呼ばれる洪水を防ぐ仕組みであり、自然災害の防止は間接的に生物多様性保全につながる

グリーンインフラの導入状況



バイオスウェル（雨の道）
場内に降った雨水が集まり、地中へゆっくりとしみ込んでいくことで、河川への負荷を軽減

整備部・事業部の取組

概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ GX House（リユース型建築）利用に向けた準備等を推進
各種戦略等での行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ■ レンタル・リース品による仮設建築物等の整備（サステナ戦略参照）
調整状況・今後の動き	<ul style="list-style-type: none"> ■ GX Houseは、現時点で三菱国際園芸博覧会総合委員会ほか数社が利用予定、参加国も検討中

GX House（リユース型建築） 代行サービスの契約スキーム



- 三菱国際園芸博覧会総合委員会のVillage出展ではGXHouseを利用予定
- その展示施設の外装材は、大阪・関西万博「三菱未来館」の資材を再利用
- 木材を選別し、木粉化、樹脂と混ぜてペレット化したものを3D成型し、再生産した建設資材として活用する予定（三菱グループHPより）

三菱国際園芸博覧会総合委員会が
再利用予定の木材



三菱未来館の「サンカクパーク」に設置されたオブジェ。天井部の梁に使用された木材がこの再生資材に生まれ変わる予定。

Village出展イメージ

●三菱グループ(三菱国際園芸博覧会総合委員会)



幸せな明日に向けて、「自然と人、社会との共生」の重要性を楽しみながら再確認して、みんなで取り組むきっかけに繋がるような展示を目指します！

(参考) GREEN サーキュラー建築とは

1 【先進的対策】「GREEN サーキュラー建築」による循環経済の推進

GREEN×EXPO 2027における仮設建築物は、環境に配慮された「GREEN サーキュラー建築」とする。

風景に呼応する建築

- 上瀬谷の地形、流域、既存樹及び卓越風などの自然環境条件や、展示・出展・修景のまとまりに沿った配置や向きとし、周囲に溶け込む規模、高さとする。
- 光、風、水、土の自然エネルギーを積極的に取り込むため、屋根や開口部、基礎等を工夫する。
- 屋外庭園（植物）の一日の変化や季節の移り変わりを感じ、心地良い屋外に開かれた設えとする。

GREEN サーキュラー建築

植物とともにある建築

- 素材、エネルギーとしての植物、空気中の酸素を生み出す植物の価値や知性を五感で感じ、幸福感 (Well-being)を得られることをデザインする。
- 日本の地域風土の中で、長年にわたり植物と密接な結び付きと関わりを持ってきた建築と植物の関係を見つめなおし、現代の技術を活用し、人と植物と建築の新しい関係を提案する。

巡りつながる建築

- 日常のメンテナンスや将来の改修が容易であるとともに、後利用を予め見込むなど、周辺環境や機能に応じて成長していく建築とする。
- 環境に配慮した素材を選び、廃棄物としない。特に国産木材等は、構造・仕上材やファニチャー、エネルギー等として使いきることで、森林資源の循環に寄与する。

出典：博覧会協会「サステナビリティに関する取組み：サステナビリティ戦略」

出所：国際園芸博覧会協会「2027年国際園芸博覧会資源循環の考え方」

ネイチャーベースドデザインによる会場と GREEN サーキュラー建築

- 日本の植物資源と文化を活かすとともに、博覧会後の花と緑にあふれたグリーン社会を見据えた魅力的な会場を提供する。
- 会場内の仮設建築は、循環型（リユース、リサイクル）とし、環境負荷の低減、資材の有効活用が図られた「GREEN サーキュラー建築」とする。
- 建材には、国産木材の積極的な活用を図る。
- 先行して工場で作材を製作、現場での建設作業低減を図る。これにより、労務負荷の低減、工期短縮を図ることができる。



木質系プレハブイメージ

事業部の取組



概要	<ul style="list-style-type: none"> ■ 一般営業出店者等へ、サステナビリティ関係の遵守を要求
各種戦略等での行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ■ 資源循環の関連対策の実施（教育計画参照）
調整状況・今後の動き	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2025年11月に一般営業出店公募を開始。公募要領ではサステナビリティへの対応を要求 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 「サステナビリティに関する取組み」、「資源循環の考え方」の遵守 ➢ 「アクセシビリティに関する取組み」など、持続可能性に配慮した取組を推奨 ■ フードコートでは、サステナブルな食への取組みをテーマに構成し、ヴィーガン、ハラールの対応を行うことで公募を実施 ■ 資源循環の考え方の策定前に公募を実施したVillage出展企業にも同様の取組を実施

一般営業出店公募要領より抜粋

サステナビリティ関係	<p>GREEN×EXPO 2027では、テーマ「幸せを創る明日の風景」等を踏まえ、生物多様性や気候変動対策等の取組を発信し、サステナブルな社会の実現に貢献することを目指しています。具体的には、GX(グリーントランスフォーメーション)の実現に向け、再生可能エネルギー100%の電気の調達や省エネの推進、カーボンオフセット等の取組により、本博覧会の脱炭素化を推進します。また、既存の自然環境や生物多様性を保全・活用し、グリーンインフラを基軸とした会場計画を推進するとともに、ネイチャーポジティブ(自然再興)の実現に向け、GREEN×EXPO 2027を通じて取組を発信します。</p> <p>このため、出店をご検討の際には、GREEN×EXPO 2027の理念を踏まえ、持続可能性の確保に向けた取組みをお願いします。</p> <p>・「サステナビリティに関する取組み」 https://expo2027yokohama.or.jp/about/sustainability/ ・廃棄の最小化や容器・包装等については、「資源循環の考え方」を遵守してください。 https://expo2027yokohama.or.jp/wp-content/uploads/2025/03/31_Resource_Circulation_Policy_20250317.pdf</p>
アクセシビリティ関係	<p>GREEN×EXPO 2027では、国・地域、文化、人種、性別、世代、障がいの有無等にかかわらず、訪れる全ての人々が安全・快適に過ごすことができるよう配慮した計画・整備を行うこととしています。</p> <p>このため、ご出店いただく際には、GREEN×EXPO 2027の理念を踏まえ、アクセシビリティに配慮していただくようお願いいたします。</p> <p>・「アクセシビリティに関する取組み」 https://expo2027yokohama.or.jp/about/accessibility/</p>
<p>【フードコート】</p> <p>複数の小型店をブース形式にコーディネートした大型店舗。 セルフサービスで料理を中央の共用席に運び、自由に食べることができる。 サステナブルな食への取組みをテーマに構成し、ヴィーガン、ハラールの対応も行う。</p>	

展示部の取組

<p>概要</p>	<p>■ 環境・生態系テーマの展示</p>
<p>各種戦略等での行動計画</p>	<p>■ 公式ウェブサイトでの情報発信（C&E計画参照）</p>
<p>調整状況・今後の動き</p>	<p>■ 展示にて、生物多様性の損失や気候変動等への危機感、自然と人とのつながりを取り上げること検討中</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ <u>テーマ館展示</u> 最新の映像技術と展示技術を用いて、植物の真の姿とともに、地球の限界に対する自然を活用した解決策を知る展示を検討中 ➢ <u>屋外展示</u> Village等のコンセプトに沿って、植物と人とのつながりを感じる植栽、体験プログラム、ワークショップ等を検討中 ➢ <u>園芸文化展示</u> 日本の誇る伝統園芸植物を通じて、人と植物のつながりとともに、多様な植物資源を未来に継承する必要性を知る展示を検討中

テーマ館や園芸文化展示の構想と進捗状況



テーマ館では、植物の真の姿を通じて、人と植物のつながりを考える機会とするためのコンテンツを検討中



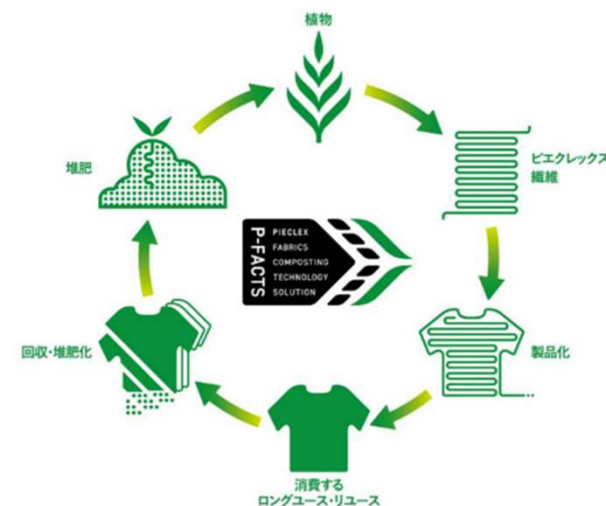
園芸文化展示では、伝統園芸植物を通じて、人と植物のつながりを考える機会とするためのコンテンツを検討



運営部の取組

<p>概要</p>	<p>■ 植物由来素材のユニフォームで「着る循環」社会実証プロジェクトを始動</p>
<p>各種戦略等での行動計画</p>	<p>■ 資源循環の関連対策の実施（教育計画参照）</p>
<p>調整状況・今後の動き</p>	<p>■ 共創パートナーTeam P-FACTSと連携し、社会実証プロジェクトを始動</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 植物由来の繊維製品を使用後に回収し、堆肥化を通じて再び自然に還す仕組み ➢ 1万人を超えるボランティア、運営スタッフ等のユニフォームを“Plant-First（植物由来）”の素材で統一 ➢ 「着用→回収→堆肥化→資源循環」までを見据えた実証（PoC）を、来場者の目の前で“見える体験”として展開

P-FACTS（ピーファクト）※の仕組み



社会実証プロジェクトの到達目標

項目	内容
規模	1万人超が着用するユニフォームの循環モデルを実装・評価
循環	回収率・再資源化率などのKPIを公開、会期中も継続更新
快適性	暑熱下での着心地・乾燥時間・通気性などの機能性を測定
標準化	実証結果を基に、他イベントなどへの横展開を見据えたモデル構築

※P-FACTS:ピエクレックス社が主導し、アパレル・繊維メーカー、パートナー企業、自治体、福祉施設、学校法人など、多くの関係者と協力・共創して作り上げる、アパレル・繊維製品の循環インフラ

出所：国際園芸博覧会協会「[GREEN×EXPO 2027 植物由来素材のユニフォームで「着る循環」社会実証プロジェクトを始動](#)」

企画調整部の取組

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 「自然と社会の調和」を表現したモニュメントの展示 ■ 「人・自然・生命」シンポジウムの開催
<p>各種戦略等での行動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全国都市緑化フェアとの連携（C&E計画参照） ■ 公式ウェブサイトでの情報発信（C&E計画参照）
<p>調整状況・今後の動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2025年4月～6月、「第42回全国都市緑化ぎふフェア」にて、隈研吾氏デザインのモニュメントをPR展示 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 移動・組立・解体・保管・再利用が容易で、環境に応じて全体の形状を変形可能 ➢ 2026年9月～開催予定の「第43回全国都市緑化フェアin京都丹波」にも出展予定 ■ 2025年11月、第2回「人・自然・生命」シンポジウム「日本人の忘れ物～日本人の自然観～」を開催

「自然と社会の調和」を表現したモニュメント



第2回「人・自然・生命」シンポジウムの開催



出所：国際園芸博覧会協会「GREEN×EXPO 2027が「第42回全国都市緑化ぎふフェア」に参加 隈研吾氏がデザインしたモニュメントで「自然と社会の調和」を表現」「GREEN×EXPO 2027 第2回「人・自然・生命」シンポジウム「日本人の忘れ物～日本人の自然観～」を開催します」

サステナビリティ推進部の取組



<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 国内外イベントでの園芸博におけるサステナビリティの取組を発信
<p>各種戦略等での行動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公式ウェブサイトでの情報発信 (C&E計画参照)
<p>調整状況・今後の動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 以下のイベントにて取組を発信済み <ul style="list-style-type: none"> ➢ 経団連自然保護協議会主催 「GREEN×EXPO2027を契機とした社会のトランスフォーメーション」(2025年9月) グリーン社会実現に向けて本博覧会はグリーンインフラを基軸とした会場計画や資源循環等に取り組むと発表 ➢ ブラジル COP30 農林水産省主催 「ネイチャーポジティブ社会への変革 - GREEN×EXPO2027を機に-」(2025年11月) 本博覧会がネイチャーポジティブ促進の契機となるよう国際連携の重要性を強調

経団連自然保護協議会主催イベント



Action(活動) 週刊 経団連タイムス 2025年10月23日 No.3702

オンラインセミナー「GREEN×EXPO2027を契機とした社会のトランスフォーメーション」を開催

～グリーンインフラ官民連携プラットフォーム/経団連自然保護協議会

9月10日、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム(注)が主催するオンラインセミナー「GREEN×EXPO 2027を契機とした社会のトランスフォーメーション」が開催された。

同セミナーは、グリーンインフラの実装に関する民間事業者への期待が高まっていることや、2027年3～9月に横浜市で開催される2027年国際園芸博覧会(GREEN×EXPO 2027)への機運醸成を念頭に行われた。



※建設 UNFCCC COP30 ジャパン・パビリオン

ネイチャーポジティブ社会への変革 -GREEN×EXPO 2027を機に-

ブラジル COP30 農林水産省主催 イベント

2025年11月15日(土)
10:00 - 11:15 (ブラジル時間)
22:00 - 23:15 (日本時間)



Zoom リンク 参加費500円

ハイブリッド (ジャパンパビリオン・Zoom)

開催挨拶

土原 健太郎
環境省 地球環境審議官

プレゼンテーション/パネルディスカッション

議題 1
農林水産省 国際食料情報特別分析官

大津 聖規
O2Farm 共同代表

中西 隆太
AGBIOTECH株式会社 代表取締役社長

ディアナ・フルゲル・ワッツ
IPC(国際食料政策)中米コーディネーター/シカゴ大学環境科学・政策学助教授

GREEN×EXPO 2027参加団代表(調整中)

モデレーター

長谷 美幸
GREEN×EXPO 協会 (公益社団法人2027年国際園芸博覧会協会)
サステナビリティ推進部長

開催挨拶

三浦 逸広
国土交通省大臣官務審議官(都市・住宅)

主催

農林水産省

共催

国土交通省

協賛者

(公社)2027年国際園芸博覧会協会 (GREEN×EXPO協会)



本セミナーは国内外のステークホルダーが取り巻くネイチャーポジティブ経済への発展を共有、生物多様性の維持・回復・創出や、生態系機能を活用した課題解決の取組を加速することについて議論します。ネイチャーポジティブの取組が経済活動の新たなコストではなく、自然資本を活用した持続可能な経済価値の創出につながる。本日は、GREEN×EXPO 2027(日本・横浜開催)を控え、各国の連携を強化、社会の意識向上の取組を促します。



出所：経団連「オンラインセミナー「GREEN×EXPO2027を契機とした社会のトランスフォーメーション」を開催」国際園芸博覧会協会「GREEN×EXPO 2027を世界に向けて発信 COP30 (ブラジル・ベレン)にてネイチャーポジティブ社会への変革を呼びかけ」

横断的な取組

<p>概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地球規模課題やサステナビリティに取り組む GREEN×EXPOを発信
<p>各種戦略等での行動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 該当なし
<p>調整状況・今後の動き</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 次のイベントに登壇し、GREEN×EXPO 2027のPRとともに、意義や役割を発信 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地球の未来と生物多様性 ウィーク 知られざる水と森の話～気候変動時代の社会とイノベーション～（2025年9月）（大阪・関西万博） ➢ 地球の未来と生物多様性 ウィーク 気候変動への対応（2025年9月）（大阪・関西万博） ➢ アジアスマートシティ会議（横浜市主催）「GREEN×EXPOで発信する循環型社会」セッション（2025年11月） ➢ サステナブル・ビジネス・ナイト（ドイツ商工会主催、東京都商工会共催）（2025年11月） ➢ International Society for Professional Innovation Management Yokohama 基調講演（2025年12月）

アジアスマートシティ会議



サステナブル・ビジネス・ナイト



